東部地区の復興計画について

東部地区　まちづくり構想

◆復興交付金事業
①都市再生区画整理事業
《事業実施　H24～30年度》

②津波復興拠点整備事業
《事業実施　H24～28年度》

③漁業集落防災機能強化事業

④都市公園事業

⑤復興公営住宅の整備

○被災施設
◆文化・教育
・市民文化会館
・大町駐車場
・釜石公民館浜町分館（戦災資料館）
◆集会施設等
・新浜町コミュニティ消防センター
・只越福祉集会所
・大渡集会所
◆消防施設
・釜石消防署
・消防屯所（第１分団第１部、第２部、第３部、第４部）

今までの地区別懇談会意見等

- 避難路の見直しについて（拡幅等）
- 岸壁の高さは
- 浸水エリアで住宅を再建できるか
- 水産業復興のために魚市場の再生を
- 甲子川の堤防の嵩上げ等
- 中番庫にマウンド設置を
- 都市の再生・雇用・にぎわいを

などの意見等を踏まえて

東部地区の復興方針

○　東部地区は釜石の中心的な役割を担ってきた歴史ある市街地

○　大多数の市民の声も踏まえ、安全面に最大限配慮しつつ
庁舎を配置するなど引き続き釜石の「拠点」とする

○　東部地区の三つの考え方は以下

①　「災害に強い都市構造への抜本的転換」などの市の復興計画（スクラムかまいし復興プラン）に基づき、避難路・避難場所を着実に整備するなど、安全確保を最優先

②　コンパクトな歩いて回れるまち、をキーワードに、回遊性を確保しつつ、 3つのプロジェクト（商業機能強化・公共施設集約・魚河岸再生）を核としたメリハリあるまちづくりを推進

③　元の街区を生かすなど、早期復興に向けスピード感を持って取り組む

東部地区の安全確保について

【安全対策①】
防潮堤かさ上げ(明治三陸津波対応)
標高＋4.0m → 標高＋6.1mにかさ上げ整備

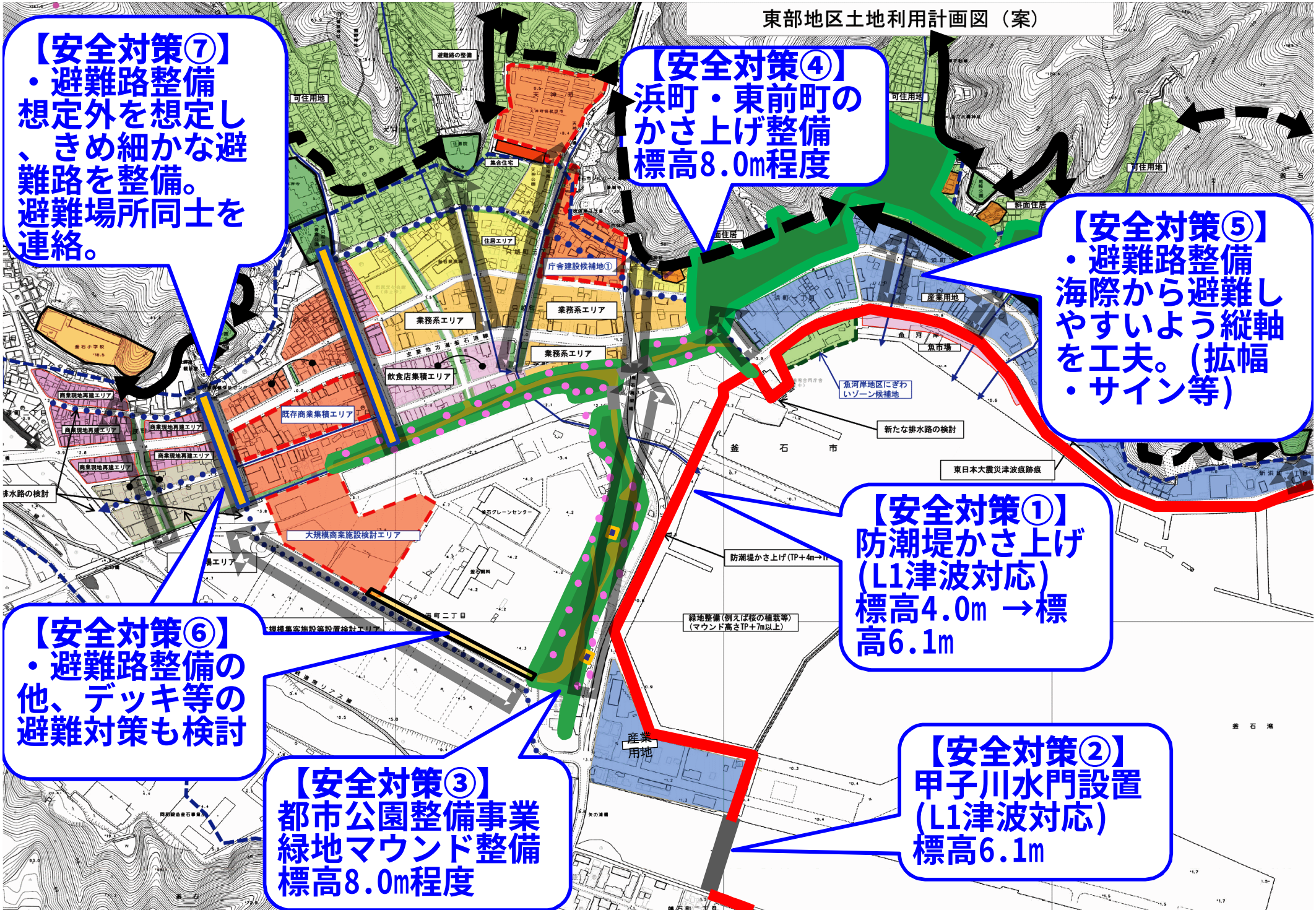
【安全対策②】
甲子川河口へ水門設置(明治三陸津波対応)標高＋6.1mで整備

【安全対策③、④】
緑地マウンド整備及び浜町東前町のかさ上げ　標高＋8.0m程度(明治三陸津波以上の津波が防潮堤を越えてきた場合、津波の勢いを弱める効果を確認。)

【安全対策⑤、⑥】
・避難路整備
海際から避難しやすいよう縦軸を工夫(拡幅・サイン等)するほか、デッキ等の避難対策も検討

【安全対策⑦】
・避難路整備
想定外を想定し、避難場所同士を連絡するきめ細かな避難路を整備。

東部地区の安全確保について



東部地区の「復興拠点プロジェクト」について

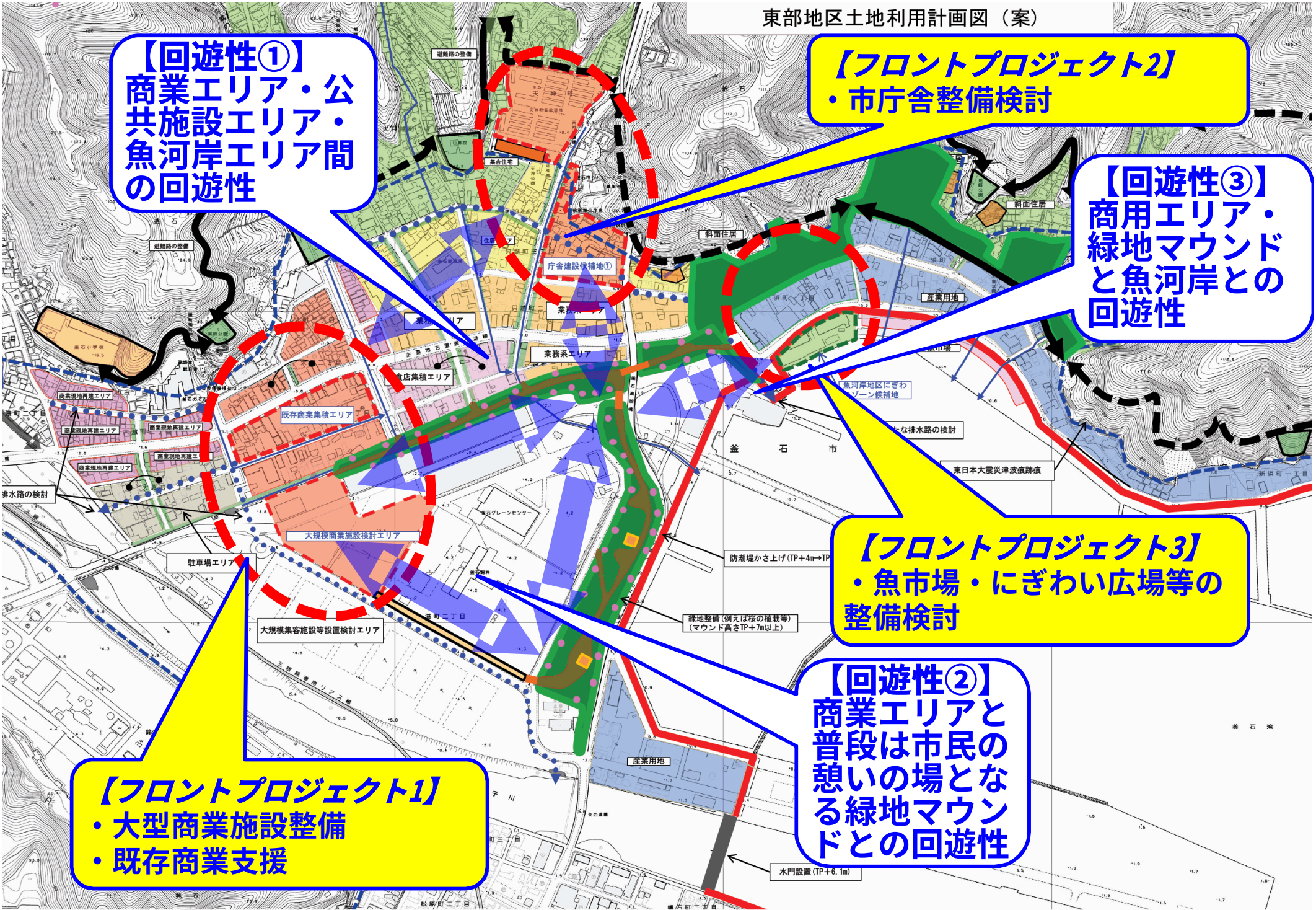
【フロントプロジェクト1】
- 中番庫地区へ大型商業施設整備
- 隣接する大町地区へ既存商業を集積

【フロントプロジェクト2】
- 市庁舎整備を検討

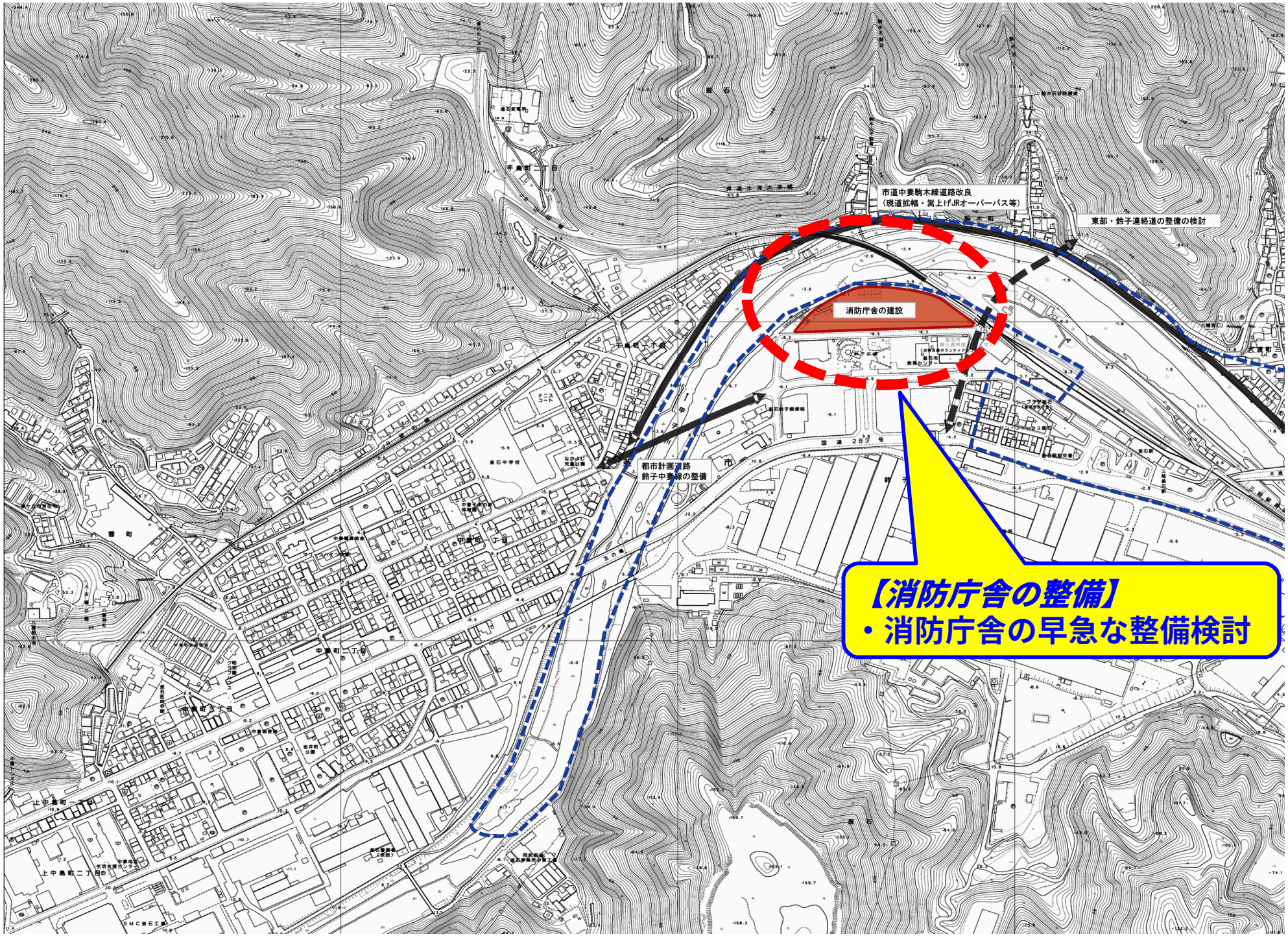
【フロントプロジェクト3】
- 魚市場の整備
- にぎわい広場等の整備

【東部地区の拠点性、回遊性の確保】
- 東部地区を引き続き当市の「拠点」とする方針。
- 「歩いて回れるまち」をキーワードに回遊性を確保。
- ３つのプロジェクトを核とし、メリハリあるまちづくりを推進

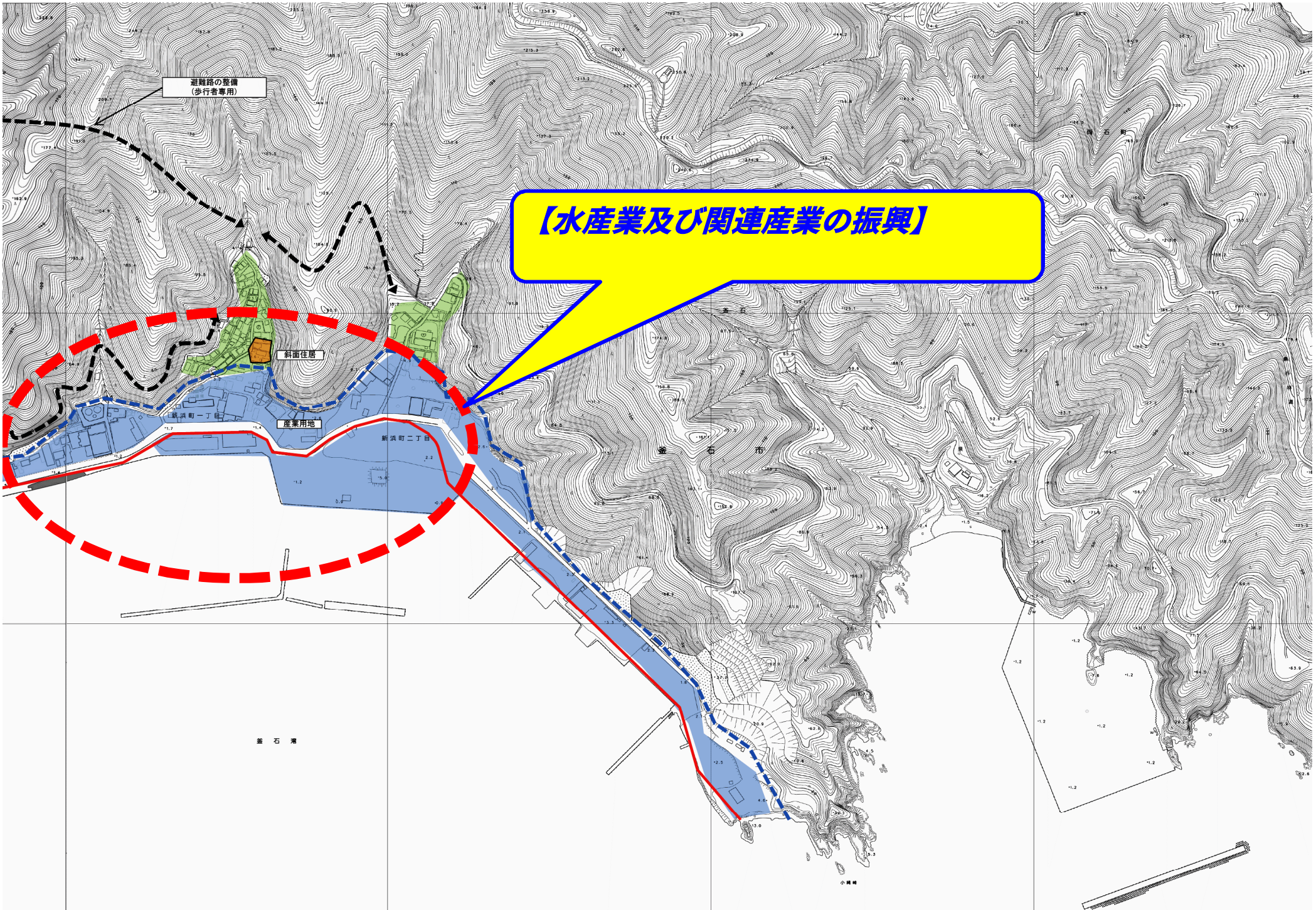
東部地区の「復興拠点プロジェクト」について



鈴子地区について


市道中妻駒木線道路改良
（現道拡幅・嵩上げJRオーバーパス等）
東部・鈴子連絡道の整備の検討
消防庁舎の建設
都市計画道路
鈴子中妻線の整備
【消防庁舎の整備】
・消防庁舎の早急な整備検討

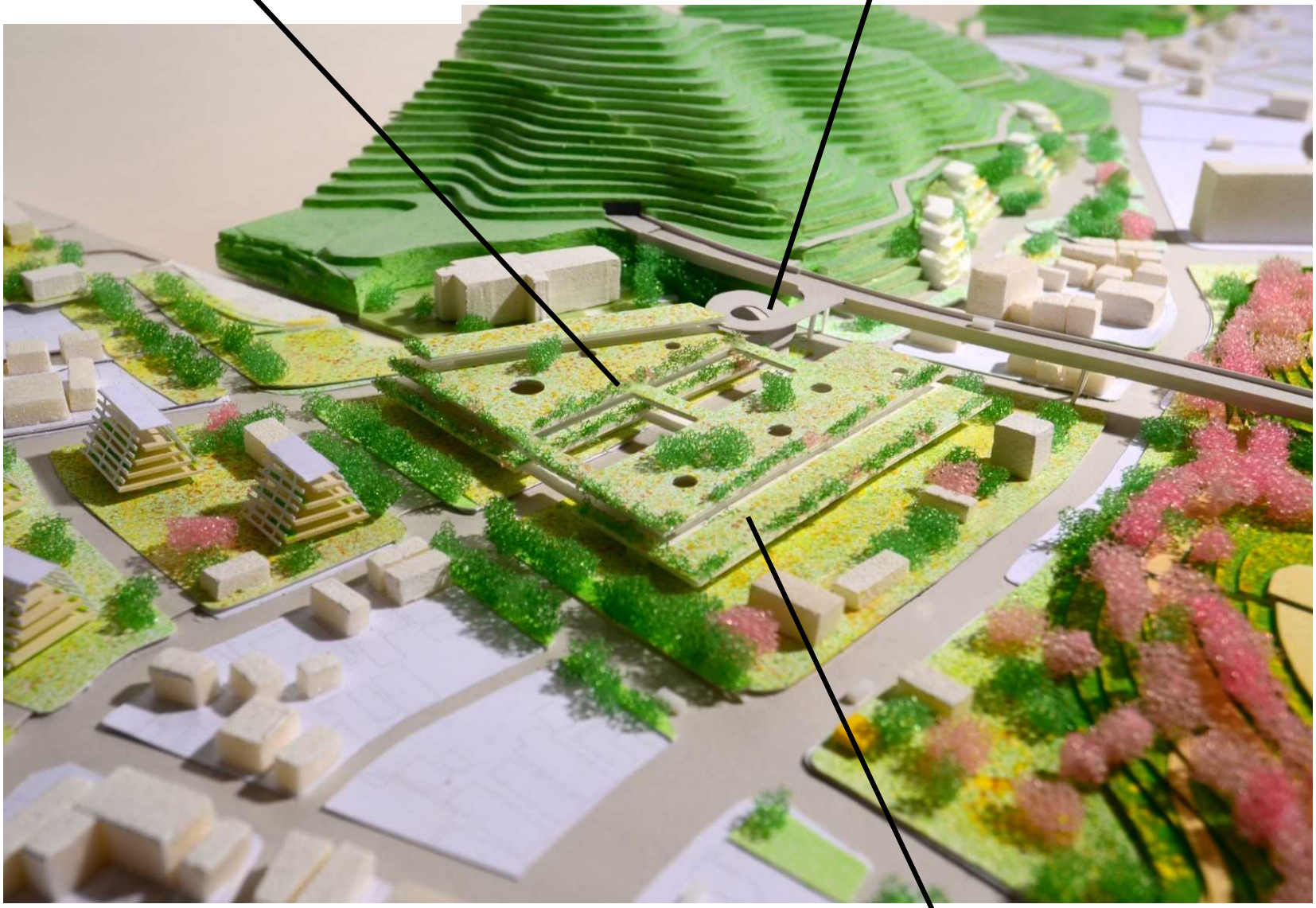
新浜町地区について



(参考) 新庁舎のイメージ

①復興の拠点
非効率な分庁舎を統合

②防災の拠点
国道45号と直接つながる立体道路



③市民活動の拠点
市民活動の議論･交流の場